別記様式

令和４年度　学校評価報告書

令和５年３月３０日

北海道教育委員会教育長　様

北海道岩見沢東高等学校長

次のとおり令和４年度の学校評価について報告します。

１　本年度の重点目標

（１）学校課題の発見、確認及び検証に努め、組織的・効率的に学校づくりを進める。
（２）洞察力と先見性を持って研修に努め、岩東教育の一層の発展を推進する。
（３）保護者や関係機関及び地域との連携により、開かれた学校教育を推進する。
（４）服務規律の保持に努めるとともに、同僚性の高い健康的な職場づくりを推進する。

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○各教科において、コロナ対応の制約がある中で「主体的、対話的で深い学び」を重視した授業実践に努めている。 ○ＢＹＯＤによる授業研修をすすめたことに加え、各種イン　ターネットサービスの利用により生徒の主体的な学習を目指した。	・デジタル力があたり前の時代、これまでの学習方法や授業内容の変革期かと思う。ＢＹＯＤは必然化と思うがセキュリティーの面での苦労があったかと推察する。継続した対応を望む。 ・対話型、生徒主体型の学修を進めてほしい
改善方策	・生徒の実態を踏まえ、授業展開や指導法を工夫し、学力の向上に努める。 ・コロナウウイルス感染症の感染防止対策が変更されることを見越して、過去に実践されていた事項の復活にとどまらず、新しい学習指導も含め再構築を行う。	
生徒指導	○いじめや生徒間のトラブルの未然防止に向け、アンケートの実施及びそのような聴講があれば必要に応じた指導・支援を組織的・継続的に行った。 ○生徒会主催の学校行事は、コロナ対応もあったが、コロナ前の内容を復活させて実施した。	・学校行事等の復活、喜ばしい限り。いじめ、ネットトラブルに関してもデジタル社会ゆえの見えない部分のものも多かったと思う。対応のデリケートさを感じる。生徒に寄り添う指導を実践していると実感した。 ・情報の共有が最も重要だと思います。
改善方策	・引き続き担任や各活動に関係する教員で、生活の日ごろからの様子の観察を進めるとともに、教員間で情報を共有しながら必要な指導・支援を随時行っていく。 ・コロナ対応として対策・変更してきた事項をできる範囲でコロナ禍以前の状況に戻していくとともに、新たな発想で行事等の企画・運営を実施する。	
進路指導	○コロナ対応による制約の中、大学等の外　部関係機関と連携した学校説明会や講演等はほとんど実施することができなかった。今後に向け、実施方法等、検討が必要である。 ○生徒の進路希望　の実現に向け、個別面談・教育相談、生徒の　ニーズに応じた指導をすることができた。	・コロナが明け、ようやく本格的に指導ができるようになったと感じる。大学進学や目指す将来像について外部と連携をとりながら、具現化できる指導を期待する。 ・生徒に目的をもって進学できるように指導をお願いします。 ・より高い希望をもって高校生活を送ってほしい
改善方策	・引き続き、外部関係機関との連携を図りながら、学校説明会、講演、講義等の実施について、実施方法や内容等を検討し、進路選択に係る最新情報の提供や進路指導・支援の充実を図る。 ・生徒の学力や質が変化する中、生徒一人一人に対する学習指導や進路指導等、日ごろの個別相談や指導をきめ細かく行っていく。	
その他	○外部への情報発信の一手段として、学校ＨＰや好評を得ている。また、コロナ対応に関して、ＨＰを利用する機会が増え、効果的であった。 ○「働き方改革」に係る職場の意識高揚を図りながら、勤務時間の縮減・長時間勤務の解消に務めている。	・公立高校として難しい部分もあると思うが、ＨＰを利用して在校生以外の方にＰＲができている高校も多くあると思う。岩東ならではの教育情報の発信があるともっと良いと思う。 ・働き方改革について保護者に周知し実行に繋げてほしい
改善方法	・学校ＨＰの運用については、日々の情報更新や部局活動に係る情報発信をさらに進めるほか、一斉配信メール(RAKUME)等によりより効果的な情報発信。情報提供となるよう取り組む。 ・引き続き変形労働時間制の活用や休暇の積極的な取得、定時退勤日の設定、職場における業務の平準化等に取り組む。	
公表方法	・ＰＴＡ総会、保護者説明会等で公表する。 ・本校ＨＰで公開する。	